

第108号
平成30年
4月

HPに 創刊号から
連載中

もう一つの道

情報は、うのみにせず、注意
深く徐々に試して下さい。

山田整骨院
熊本市中央区出水 4-25-1
096-364-7611
<http://yamadasu.com/>
視力回復
<http://facebook.com/mejikara>
妊娠推進力 不妊解決
<http://facebook.com/sizennjyutai>

質疑応答

月刊西医学 昭和37年10月号

子供の慢性中耳炎

問) 8歳の男子、2~3歳の頃に中耳炎を発病、カゼの治療法で一時的におさえをしました。

ことし春季の検査で、上鼓室化膿症を指摘され、耳漏もあります。

現在、裸療法、柿茶、スイマグ飲用などを続けています。

適切な処置法をご教示願います (杉並区 矢沢正人)

答) 幼児の時代に根治しなかった中耳炎が慢性化してるものと思われます。

そこでまず、ぜひとも実行されたい要点を申しますと、食べものの面では甘い菓子類を当分中止することです。これは鼻疾などの場合もそうですが、耳疾の場合でも同様で、白砂糖がそういった箇所のグローミューをとかしてしまい毛細血管一本やりになるために微小な出血をきたし、つねに細菌を養うようになる結果、化膿が治らないのです。どうしても甘いものが欲しいときは黒砂糖のもの少量、あるいは天然の蜂蜜(いま店頭にてているのは、砂糖でのばしてあるのが多いから注意の要あり)などを用いることです。

それから化膿巣を健全な組織にかえるために、どうしても生野菜と柿茶が必要です。生野菜は根と葉の部分混ぜて5種類以上のものを、ミキサーかジューサーで泥状にしたものを毎日50匁以上は摂ってください。また柿茶も病巣部のコラーゲン(組織のもとになるもの)をつくる上に絶対に必要ですから、小さな紙袋のを1日に2ないし3個分位は飲んでください。なるべく濃く出したものを、1日中何回もチビチビと飲むことがもっともよい飲み方です。

以上はつまりどちらかという科学的な面ですが、つぎに物理的な面として左右揺振運動(背腹運動)を徹頭徹尾実行することです。朝晩あるいはその他の時間でも、姿勢を正し、ダルマさんのようにお尻を中心にして一直線に上体を左右に振る運動です。これは西医学の6大法則で、6番目の運動になっておりますからよくご研究になってください。機械ですと美容機が好適です。

とにかく頭部を振ることは、のどから上部のあらゆる疾患に有効的に作用します。

これはどうしてかといえ、病巣部の荒廃したグローミューを賦活するようになるからです。温冷浴や裸療法も、同じような目的にかなうものですから大いに実行して下さい。(江部悌三)

子宮後屈に悩む

問) 35歳の主婦、結婚後3年一度も妊娠したことなく、1日も早く子どもに恵まれたく願っています。

3ヵ月前より月経1日目に子宮に激痛を感じ、致し方なく薬でその場を逃れ、また性交時に痛みを覚えます。婦人科医は手術で治せるといいますが、主人も不賛成ですので、対処方法を御教示ください。それから、冬季に生まれた子は頭がよいといいますが、ほんとうでしょうか。(U生)

答) 産婦人科での診断で「子宮の位置が悪い」という意味は恐らく、子宮の後屈、前屈、右傾、左傾のどちらかに当たっているのでしょう。

子宮というものは非常に動きやすく、それは丁度伸び縮みのきくゴムひものような靭帯という名前の物質で支えられているからなのです。その靭帯のどれかが何かの理由で緊張すれば当然縮むわけですが、そのために子宮はその方向にひっぱられ、反対に弛めば、子宮は反対側に傾くかあるいは下方に下がり、また片側で引っぱれば反対側の靭帯は伸びなければならず、そこにも無理が起るのです。このように子宮の主な部分がひっぱられて傾きます。後ろの方に傾くのを後屈、前に傾くのを前屈、左右にそれぞれ傾くのを左傾、右傾といいます。とにかくどちらへ傾いても病的の状態なので、無理をしているのですから痛みを感じるし、月経不順もそのため起り、月経痛などの原因にもな

るのです。また正しい姿勢をしていない子宮は、折角卵が受精しても、子宮底に着床しにくいのです。そして、たとえ着床してもすぐに流産などして永続きしないので、結局妊娠が成功しないわけです。

また交わりの時の痛みは、子宮がどちらかに傾いているだけでなく、下に下がっているのではないかと思われま。そこでこれらの場合の産婦人科医のとるべき治療法としては、手術によってこの伸びすぎた靭帯を短くして、子宮の姿勢を正しくしようということです。

しかし、手術によってこの姿勢が一度はよくなっても、同様のことが繰り返され起ることは考えられることなので、この場合手術というものは、無駄なことともいえるのです。

そこで先ず子宮の姿勢の悪くなる原因すなわち靭帯が異常に弛んだり、縮んだりする原因について考えてみましょう。

これはやはり、足に故障のあることが最大の原因といえま。故障のある足というのはどこかに炎症を起こしているのです、そのために背骨には狂いが生じます。

ブロックを積み重ねたような脊椎は、その土台である両足が、アンバランスならば、とうてい、まっすぐに積み重なられたままで保てる筈はなく、殊に脊椎骨の1つ1つにある棘状突起という小さな角が充分にはまり合い重なり合わなければいけないのに、これが、外れかけたりすることが多いのです。

これを副脱臼といいます。これが腰椎にある場合は当然腰椎から分れていて、子宮やそれを支えている靭帯を支配している神経の働きを鈍らせるので、子宮を支える靭帯が弛くなり、したがって子宮は正しい姿勢が保てなくなるのです。

このように原因を探っていくと、ただ手術にたよって一時的に位置を直すよりも、足を正しく背骨を正しくすることが、最もかしこい方法だということが分るわけです。

そこで先ず両足に平均した体重をかけるようにすること、すなわちそのバランスを絶えず考えること。また背骨を正しく保つための方法として、寝床は平床（ベニヤ板など）を使うこと。

そして合掌合蹠を励行することが最も大切だといえるのです。

合掌合蹠の方法は、平らな床に仰臥位をとり、両脚を床につけたまま膝を曲げて両足の裏を合わせます。つぎに足の裏は合わせたままで両足の踵をできるだけ臀部に近づけるように両膝を曲げる運動、つまり両足の裏を合わせたままで脚を伸ばしたり縮めたりする運動を繰り返すのです。この際、両手のたなごころを合わせ、肘を張って両手を伸ばしたり、肘を曲げたりする運動を、脚に合わせて行います。ちょうど蛙が泳いでいるような格好です。これを朝晩2回宛、1回にこの屈伸運動を30回位くりかえします。最後に両踵を出来るだけ臀部に近づけた姿勢で両手は胸の上で合掌したまま約3分間静止します。これを約1ヵ月位つづけると、次第に子宮の位置が正しくなり、したがって妊娠も可能になり、いろいろの不愉快な症状もとれてくる筈です。

この他、六大法則の実行ももちろん必要なことですが、特に平床に寝すむことと、合掌合蹠とを実行して、貴女と同じ悩みを解決できた婦人が私の扱った人の中でもかなりの数にのぼっています。

右の方法を実行しても、なお妊娠不可能の場合は、御主人の方の検査を一度受けてみる必要があるのではないのでしょうか。

また、子どもは冬に生まれても夏に生まれても、頭のよしあしには関係ないということ、私の経験から特に付記しておきます。（土本秋江）

解 説

グローミューは動脈と静脈を直接結ぶ血管で、毛細血管を血液が通らないバイパスです。甘い物とアルコールの摂り過ぎはこの血管を駄目にします。最たるものが糖尿病です。それを再生させるのが生野菜と柿茶のビタミンCです。座って頭を振る運動はこのグローミューを活性化させます。当院でも器械で心臓を下にして手脚を上げて振動させますが、動かす目標が心臓より上にあるというのがポイントで、グローミューを通して超高速血液循環が起こって新陳代謝を活発にします。妊娠する際にもこのグローミューに異常があれば当然妊娠しにくく、しても流産の可能性が大きいのです。ですから甘い物、ごちそうが好きな妊娠の希望者は、自分で不妊の原因を作っていると反省して食生活しなければなりません。子宮後屈と平床寝台と合掌合蹠との関係が今回の回答でよく分かりました。昔はベニヤ板の寝台を推奨していますが、私は硬いマットレスを購入して約30年使っています。慣れれば気持ちのいいものです。